令和2年度　大田区立羽田中学校　自己評価　報告書

令和3年2月1日

○　本校の概要

本校は大田区の東部に位置する羽田と東糀谷の2つの地域を校区に抱え、通常学級6学級と特別支援学級2学級の生徒162名が通学している。どちらの地域も町会、自治会のまとまりが強く、生徒は地域行事への参加や協力を通して、郷土愛を深め自尊感情を高めている。学校経営の基本方針は「豊かな心と主体性を育む教育の推進」「学力向上・体力向上のための取組の推進」「地域と共に子どもを育てる教育の推進」の三本柱であり、外部の人材を積極的に活用し、基礎学力の向上や体力運動能力の向上に向けての取組を推進している。学習面や生活面の課題も多いが、校区の小学校と連携し、改善に向けての努力をしている。特別支援学級は持久走と和楽器の演奏に力を入れ、生徒を積極的に校外に出すことにより、自信をつけさせている。校長の掲げるスローガン「一人一人が自分の夢を実現させるために日々努力し続けていける学校」のもと、教職員、保護者、地域が連携し、生徒の「豊かな心」「あきらめずに努力する姿勢」「他と協調し最善をつくす実践力」を伸ばす取組を推進している。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
							評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	A 保護者アンケートで「将来のために必要な力を育てている」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「どのような生徒を育てたいか知っている」と回答した生徒の割合	4：A 80%以上 B 70%以上 3：A 60%以上 B 50%以上 2：A 40%以上 B 30%以上 1：A 40%未満 B 30%未満	3	・外国語指導員を活用し、コミュニケーション能力の育成を図った。各学年ともに、指導員とも交わり成果を上げた。 ・ものづくり学習フォーラム等学校外での体験活動がなかった。校内で、「おおたものづくり」を意識した授業に取り組んだ。コロナ禍の中、作品展示会を開催し、生徒が取り組んだ成果を発表した。数学の少人数授業で基礎・基本を徹底しているが、基礎・基本とともに、応用・活用を意識して指導することが必要である。 ・大田区教育推進校を受け、ICT機器の活用は大きく進んだ。すべての教員が日常からICT機器を活用している。また、生徒に使用させての活用を定期的に行うよう校内での内規をつくった。また、タブレットパソコンを使用しての家庭学習をすすめている。次年度に向けて、学習の習慣化指導をすすめる。 ・特別な教科道徳では毎時間の道徳の授業を人権教育も含めて指導した。道徳に関する授業の意識は大きく高まった。 ・コロナ禍で、部活動の取り組みが少なく、体力テストの低下を心配している。授業において、技能とともに体力の増強を意識して行っている。 ・保護者アンケートでは、「将来のために必要な力を育てている」と回答した保護者の割合」が78．7%となり、前年度より8．5%上昇した。また、「教育目標や指導方針を明確に示していた」も72．4%となり5%上昇している。生徒の「どのような生徒を育てたいか知っている」という回答は62．3%と14%上昇している。ICTの活用の研究に全校で取り組むことで、学校としての指導の方向性が保護者、生徒に伝わったと思われる。	A B C D	8 2	・ICT機器の活用については先生方が積極的に取り組まれている様子を拝見しています。来年度のタブレットを活用した学習の習慣化指導にも期待しています。並行して、情報セキュリティリテラシーの指導もお願いします。 ・行事等に取り組む力がある羽中生にとって、感染症対策下で体験活動が少なくなってしまったことは残念です。
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 文章力、表現力等を高めるために、新聞教育（NIE、新聞作り）を取り入れた指導を実施する。	A 保護者アンケートで「ティームティーチング、少人数指導、補習教室などを実施し、生徒一人ひとりの学力を伸長しようとしていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「ティームティーチング、少人数指導、補習教室などの取り組みは、生徒の学力を伸ばすために役にたっている」と回答した生徒の割合	4：A 80%以上 B 80%以上 3：A 60%以上 B 60%以上 2：A 40%以上 B 40%以上 1：A 40%未満 B 40%未満	3	・教員が生徒一人一人の学習状態をよくつかんでいる。さらに、寄り添って成果をあげさせることで、生徒の意欲向上につなげる必要がある。 ・保護者への生徒の学習状況の伝達は、ステップ学習チェックシートと別様式で行っているが、より小さいステップでの意識づけが必要である。 ・補習（学習）教室への参加者が大きく増加した。前年比150%以上となっている。ICTの活用と併用し、個別最適化を目指す。 ・授業改善プランは、全教員が関わり作成している。全教員がおおむね授業に生かすことができていると回答している。 ・NIEを取り入れた指導は、丁寧に細かく行い、言語能力や探求能力等の育成に大きく寄与している。行うことができない行事があったが、新聞の作成により能力を高めることはできた。 ・「ティームティーチング、少人数指導、補習教室などを実施し、生徒一人ひとりの学力を伸長しようとしていた」と回答した保護者の割合は80．3%であった。また、生徒の割合は、76．7%であった。保護者アンケートは8．5%、生徒アンケートは9．3%上昇している。あと少しで、4の成果指標をつけてもよい状態であった。	A B C D	6 4	タブレットやデジタル教科書の導入は生徒たちの学習への動機づけにつながるものと思います。ステップアップのチャンスとなるよう期待しています。
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 デイリーライフ（生活ノート）の点検や休み時間・空き時間に生徒を見守り、生徒がいつでも相談できる環境をつくる。	A 保護者アンケートで「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」と回答した保護者の割合 B 不登校生徒の割合	4：A 80%以上 B 1%低下 3：A 60%以上 B 0.5%以上低下 2：A 40%以上 B 同程度 1：A 40%未満 B 0.5%以上上昇	2	・組織的に生活指導に取り組むことができた。SNS学校ルール改定に取り組むなど、学校として生徒と共にルールを守る意識を向上させた。言葉遣いなど日常的な行動レベルでの意識づけをさらに行う必要がある。 ・道徳の授業は、研修を行い、教員の意識が大きく向上した。 ・学校生活調査、QUの結果を用いて、生徒への対応を着実に行った。被侵害的な意識に陥り、不登校になるケースが多く、レジリエンスの向上を意識した指導に取り組む必要がある。また、被侵害的な意識に陥る生徒は、家庭的な状況が不安定であることが多く、支援の体制をさらに整える必要がある。 ・早期発見への取組の意識は、教員の中で非常に高い。デイリーライフの点検、見守り活動を充実させている。未然防止の観点から、学校生活を魅力的にするための取組を充実させる必要がある。 ・学校での問題行動のケース会議を行う事案が今年度はなかった。不登校や家庭環境でのケース会議は、必要に応じて着実に行った。 ・「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」に肯定的に回答した保護者の割合は、52．8%と11%上昇した。不登校生徒は、取り組みの結果改善した生徒が多く現れた。しかし、授業日数が増えるにつれ、不登校経験者の休みが少しずつ増え、30日以下にすることはできなかった。 生徒アンケートでの「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」に肯定的に回答した生徒の割合は、63．7%であり、前年度より7．9%上昇している。	A B C D	6 4	・休業中の生徒への連絡の取り組みから丁寧に対応してただいたと感じています。今年度は不登校対応の教員、サポートルームの専門員、部活動指導員と多くの方が生徒に関わることによって一人ひとりに寄り添った指導が行われ、保護者や生徒アンケートの数字に反映されていることをとてもうれしく思います。引き続きチーム羽中としての取り組みをお願いします。 ・感染症対策下、心の体温計の調整が難しい生徒も増えているかと思います。スクールカウンセラーによる丁寧な情緒的なサポートをお願いします。 ・道徳の授業については依然として保護者アンケートの「よくわからない」の割合が多い。地区公開講座等の工夫が必要と考えます。
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	A 保護者アンケートで「元気に登校し、楽しい学校生活を送っていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「健康な生活を送るための指導をしている」と回答した生徒の割合	4：A 90%以上 B 80%以上 3：A 70%以上 B 60%以上 2：A 50%以上 B 40%以上 1：A 50%未満 B 40%未満	3	・「早寝・早起き・朝ごはん」運動に、学校として取り組んだ。運動を行っているときには、生活習慣の向上が見られたが、その期間が終わると低下してしまう現象がある。習慣化することを意識して取り組む。 ・栄養士による食育の指導や、毎日の給食を通しての食育を活発に行うことができた。 ・コロナ禍において、生活習慣が乱れることを防ぐため、小まめに生徒への指導、保護者への連絡を行った。 ・「健康な生活を送るための指導をしている」に肯定的に回答した生徒の割合は79．5%であった。また、保護者アンケートで「元気に登校し、楽しい学校生活を送っていた」に肯定的に回答した保護者の割合は76．7%であった。あとわずかで成果指標4となる状態であった。 ・給食への肯定的評価は生徒91．1%、保護者84．3%であり、非常に高い。栄養士を中心とした取り組みが成果をあげている。 コロナ禍において、ゲームに依存し、生活習慣が乱れていることを器具している。	A B C D	8 2	・感染症対策の取り組みの確実な実施、ありがとうございました。

プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 授業規律と教室内外の環境整備を徹底し、誰もが落ち着いて学習に取り組める環境づくりを進める。	A 保護者アンケートで「わかりやすい授業を実施するために、様々な工夫をしていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「授業をわかりやすくするために、様々な工夫をしている」と回答した生徒の割合	4：A 80%以上 B 90%以上 3：A 60%以上 B 70%以上 2：A 40%以上 B 50%以上 1：A 40%未満 B 50%未満	3	・授業改善セミナー等、外部での研修がほどんと行われなかった。しかし、ICTの活用を研究テーマとして、研究推進校の取り組みを行い、その中でOJTを通して、効果的な使用方法を各自が研修できた。多くの授業で、ICTを使うことが大きく増えている。 ・支援委員会及び、SR委員会を立ち上げ、週1回定期的に、不登校・いじめのチーム支援を行った。また、その背景である特別支援の指導をすすめることができた。 ・非常に落ち着いた授業、学校生活が展開されており、生徒アンケートの「授業は規律正しく落ち着いている」は、昨年度より10%以上肯定的な回答が増えている。 ・「授業をわかりやすくするために、様々な工夫をしている」というアンケートに肯定的に回答した生徒は80．8%、保護者は63%であり、昨年度より生徒は14．3%、保護者は3．4%上昇している。教師の取り組みが生徒には伝わっているが、公開授業などが少なく、保護者へは伝わりづらかった。工夫が必要である。	A B C D	8 2	・予定の変更と感染症対策が続く中での研修研究への取り組みに先生方の熱意を感じています。
プラン6　学校・家庭・地域が一体となって共に進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 小中一貫「生活指導スタンダード」「学習指導スタンダード」を保護者に周知し、校区の小学校と連携・一貫した指導を行う。	A 保護者アンケートで「開かれた学校づくりをしていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「ボランティアで地域の行事などに意欲的に参加している」と回答した保護者の割合	4：A 90%以上 B 70%以上 3：A 70%以上 B 50%以上 2：A 50%以上 B 30%以上 1：A 50%未満 B 30%未満	3	・ホームページは、ICTサポーターや経営支援部を活用し、学期に2～3回更新することができた。臨時休業中は、課題をホームページを通して配布した。 ・地域連絡協議会は、定期的な開催が難しかったが、学校として胸襟を開き、情報を提供している。 ・学校支援地域本部とは密接な連携がとれている。学習指導、マナー教室、特別支援級への書写指導など多くの事業を継続実施できた。また、生徒一人一人が将来に夢をもてるよう「職業人の話を聞く会（羽ばたきプロジェクト）」を開催した。 ・ボランティア自体の機会が今年度はほとんどなかった。ボランティアの必要性などを次年度以降、再度指導していく必要がある。	A B C D	7 3	・地域との連携となる地域行事も実施が難しい一年となり残念でした。

〇「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
〇記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
〇学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。